

平成 30 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人

郡山清和救護園

平成 30 年度 法人事業報告

平成 30 年度は、当法人が、これまで担ってきたセーフティネットとしての役割を果たしつつ、地域社会より求められる多様な福祉ニーズや期待に応えるために、次の事項について努力いたしました。

◎基本方針

- ①インクルージョン等の基本的理念の徹底
 - ②地域生活支援への取り組み
 - ③社会貢献への取り組み
- 認定生活困窮者就労訓練事業の充実
- ④福祉サービスの質の向上と人材育成
 - ⑤法人・施設の健全経営のための基盤づくり

I. 評議員会の開催

(1) 平成 30 年 6 月 15 日(金)

- 議題・平成 29 年度 事業報告承認について
- ・平成 29 年度 計算書類等及び財産目録の承認について
 - ・理事の欠員に伴う補充について

(2) 平成 31 年 3 月 7 日(木)

- 報告・理事・監事の選考委員会について
- 議題・定款変更について
- ・その他

II. 理事会の開催

(1) 平成 30 年 5 月 30 日(水)

- 議題・平成 29 年度 事業報告承認について
- ・平成 29 年度 計算書類等及び財産目録の承認について
 - ・養護老人ホーム 希望ヶ丘ホーム
- 平成 29 年度赤い羽根共同募金配分金交付決定並びに事業の入札業者選定について
- ・平成 30 年度 第 1 次収入支出補正予算案について
 - ・社会福祉法人郡山清和救護園 諸規程の一部改正について
- ① 就業規則
 - ② 旅費規程
 - ③ 慶弔規程
 - ④ 事務専決基準
- ・評議員会の日時及び場所並びに議題の決定について
- ・理事の欠員にともなう補充について
 - ・その他
- ① 業務執行理事の平成 29 年度の報告について
 - ② 保育園の報告について

③ その他

(2) 平成 30 年 7 月 27 日(金)

議題・平成 30 年度 第 2 次収入支出補正予算案について

- ・障害者総合支援法に基づく「みんなのいえ」(外部サービス型共同生活援助)運営規程の一部変更について
- ・その他
 - ① 郡山せいわ園統括施設長の雇用期間延長について
 - ② 郡山せいわ園利用者預かり金等管理規程の一部改正について

(3) 平成 30 年 11 月 16 日(金)

報告・平成 30 年度社会福祉施設等の行政指導監査について

- ・平成 30 年度社会福祉法人上半期内部監査について
- ・業務執行理事よりの、上半期(4 月～9 月)職務執行報告について

議題・平成 30 年度 第 3 次収入支出補正予算案について

- ・平成 30 年度希望ヶ丘居宅介護支援事業所 収入支出予算案について
- ・各種規程関係等変更について
 - ① 定款
 - ② 就業規則
 - ③ 救護施設郡山せいわ園 管理規程
 - ④ 養護老人ホーム希望ヶ丘ホーム 運営規程
 - ⑤ きらきらげんき保育園 管理規程
 - ⑥ きらきらげんき保育園 給与規則
 - ⑦ 賃金控除に関する協定書

・その他

- ① 旧郡山市立大田小学校活用事業者公募の件について
- ② ご寄付をいただいた件について
- ③ 車椅子の寄贈について
- ④ 自衛消防操法大会の結果について
- ⑤ きらきらげんき保育園の報告について
- ⑥ その他

(4) 平成 31 年 2 月 27 日(水)

報告・「福祉 QC」全国発表大会の結果について

- ・業務執行理事並びにきらきらげんき保育園よりの、下半期(10 月～2 月)報告について

議題・平成 30 年度 第 4 次収入支出補正予算案について

- ・平成 31 年度 事業計画案及び収入支出予算案について
- ・平成 31 年度 法人・施設の組織図並びに管理監督者の雇用期間延長について
- ・保育所等における業務効率化推進事業について
- ・理事・監事の選考委員会について
- ・評議員会の日時及び場所並びに議題の決定について
- ・その他

(5) 平成 31 年 3 月 26 日(火)

報告・業務執行理事並びにきらきらげんき保育園よりの、下半期(3 月)報告について

- 議題・平成 30 年度 第 5 次収入支出補正予算案について
- ・社会福祉法人郡山清和救護園 苦情解決委員会の第三者委員について
 - ・障害者総合支援法に基づく「みんなのいえ」(外部サービス型共同生活援助)運営規程の変更について
 - ・きらきらげんき保育園給与規則及び管理規程の変更について
 - ・その他

III. 監事会の開催

(1) 平成 30 年 5 月 21 日(月)・22 日(火)

平成 29 年度 法人本部及び施設の事業報告ならびに会計等資金収入支出決算についての、監査の実施。

(2) 平成 30 年 10 月 29 日(月)・30 日(火)

平成 30 年度前期 各施設の事業推進の進捗状況及び会計等についての、監査の実施。

IV. 事業の推進

1 第一種 社会福祉事業

(1) 救護施設 郡山せいわ園の経営

- ・救護施設居宅生活訓練事業の実施
- ・保護施設通所事業の実施
- ・保護施設一時入所事業の実施

(2) 養護老人ホーム 希望ヶ丘ホームの経営

2 第二種 社会福祉事業

(1) 障害福祉サービス事業の経営

- ・グループホーム「みんなのいえ」の経営

(2) 老人福祉法に基づく老人居宅介護等事業の経営

- ・希望ヶ丘訪問介護事業所の経営

(3) 児童福祉法に基づく小規模保育事業の経営

- ・きらきらげんき保育園の経営

3 公益を目的とする事業

(1) 希望ヶ丘居宅介護支援事業所の経営

(2) 認定生活困窮者就労訓練事業の経営

(3) 特定施設入居者生活介護事業の経営

4 中間的就労支援事業について(認定生活困窮者就労訓練事業)

(1) 事業内容

①本事業の実施にあたっては、中間的就労支援システムに基づき、利用者の方に合わせた支援形態で取り組み支援しました。

<平成 30 年度 中間的就労支援 事業実績>

	郡山せいわ園	希望ヶ丘ホーム
相談件数	2 件	1 件
実施者数	5 名 (無償ボランティア:3 名) (有償ボランティア:2 名)	5 名 (無償ボランティア:1 名) (有償ボランティア:4 名)

平成 31 年 3 月 31 日現在

- ②利用者の方が自分に合った就労支援内容を見つけ出せるように支援しました。また、適宜就労支援内容の見直しを図り、支援内容の拡充に努めました。
- ③地域ニーズの把握に努め、支援を必要としている方々に適切な就労支援等の機会を提供できるように努めました。
- ④郡山市等の関係機関との連携を密にし、情報の共有を図りました。

	郡山せいわ園	希望ヶ丘ホーム
施設見学	2 回	1 回
支援調整会議	3 回	1 回

(2) 健全な運営を図るために

生活困窮者支援等について、的確な支援ができるよう研修会等に積極的に参加し、福祉サービスの質と職員の資質の向上に努めました。

5 働きやすい職場づくりをめざして

職員の仕事の効率化を図り、仕事内容の見直しなどを行い退勤時間の徹底、夜勤専用職員の増などをはかり、夜勤回数などの軽減に努めました。

6 職員研修等の充実

福祉サービスの質の向上と職員育成を目的に「福祉 QC」サークル活動に取り組みました。

今年度は、第 29 回「福祉 QC」全国発表大会において、救護施設 郡山せいわ園が『優秀賞』ならびに『感動賞』、養護老人ホーム 希望ヶ丘ホームが『感動賞』ならびに『「福祉 QC」全国推進委員長賞』を受賞する等、日頃の改善活動に対して、全国の皆様方より高い評価をいただきました。また、法人としては、平成 28 年度に希望ヶ丘ホームが、また、昨年度と今年度には、救護施設 郡山せいわ園が日本科学技術連盟より『石川馨賞奨励賞』を受賞し、法人としては 3 年連続して受賞の栄を賜わりました。

平成30年度 郡山せいわ園事業報告

本年度も基本理念である“地域のなかで、地域とともに、自分らしくいきいきと”をふまえて、当施設の“利用者本位のサービスの提供”と地域の皆さんに“信頼される施設づくり”をテーマに鋭意努力してまいりました。さらに、施設利用者の皆さん及び地域の皆さんに“しあわせ・よろこび・満足”そして、“信頼”をいただける施設経営及び福祉サービスの提供を目指し、次の諸事業を実施いたしました。

☆重点事項☆

1. 生活自立支援について

今年度も“生活自立と生きがいの確立”を基本目標として、“個別支援計画書”に基づき、利用者の皆さんお一人おひとりの意向を尊重して、多様なニーズを踏まえたサービスを提供するために、次のような支援・援助を行いました。

- (1) 利用者の皆さん個々の能力に応じたグループ別の生活支援や作業訓練等を通じて、毎日の生活が元気に送れるよう支援しました。
- (2) 利用者の皆さんの高齢化等による身体機能低下の回復・維持・予防のため、毎日の歩行運動や作業療法士・理学療法士の指導のもとリハビリに努めました。
- (3) 地域社会との交流活動を積極的に進め、利用者の皆さんのが社会参加への意義と喜びを見いだせるよう支援しました。
- (4) 虐待に対する意識を高め、常に利用者の皆さん的人格や権利を尊重し、安心・安全に生活が送れるよう支援しました。
- (5) 心のケアを必要とする方々に精神保健福祉士等による個別面談（ホットサロン）や嘱託医との連携を密にし、安心して心おだやかに生活が送れるよう努めました。
- (6) 地域貢献に積極的に取り組み、地域社会の福祉のニーズに応え、より一層地域に根ざした施設運営ができるよう努めました。

*実施した主な行事は次の通りです。

4月・お花見（1班、2班、3班にて）を新潟方面及び会津喜多方方面と希望ヶ丘ホームにて実施

5月・端午の節句

・白岩小学校さん、東芳小学校さん、宮城小学校さんの運動会に参加

6月・わらびとり

・宮城小学校さんとの交流会

・日本電産コパル労働組合さんとの交流会

7月・サマーフェスティバルinせいわ（夏祭り）

（パナソニックデバイス労働組合さん等のボランティアをいただく）

- ・福島県退職公務員連盟郡山支部女性部の皆さんとの交流会
- ・三菱電機労働組合さんとの交流会
- ・宮城小学校さんとの交流会

8月・納涼祭

- ・供養祭(お盆)
- ・不帰省者一泊旅行（1班・2班）
- ・小泉小学校さんとの交流会

9月・敬老会

- ・供養祭(お彼岸)
- ・富久山町社会福祉少年団さんとの交流会

10月・四施設交歓会

- ・きららさんのラーメンご慰問
- ・芋煮会
- ・東芳小学校さん、宮城小学校さん、小泉小学校さんの学習発表会に参加
- ・理事長杯ゲーム大会

11月・秋まつり

- ・白岩小学校さんの学習発表会に参加
- ・白岩小学校さんとの交流会

12月・クリスマス会

- ・久保田保育所さんのクリスマス会に参加
- ・郡山北ライオンズクラブさんの餅つきご慰問
- ・希望ヶ丘ホームさんのクリスマス会にご招待いただきました

1月・新年会

2月・節分

- ・不帰省者一泊旅行（1班・2班）

3月・ひなまつり

2. 健康にすごすために

利用者の皆さんお一人おひとりが健康で、充実した日常生活を送れるよう、次の事項に努力しました。

- (1) 特に高齢者の皆さんの身体不調時の早期発見・治療に努めました。
- (2) 嘴託医（内科・精神科・歯科）による診察を通してきめ細やかな連携をはかり、定期健康診断を通して病気の予防・早期発見治療に努めました。
- (3) 作業療法士・理学療法士との連携のもと、利用者の皆さんの身体の機能維持のた

めに、転倒防止等のリハビリに努めました。

(4) 感染症予防に努め、次のことを実施しました。

①インフルエンザについて

- ・インフルエンザの予防接種の徹底と手洗い・うがいの励行に努めました。
- ・加湿器を設置して適正な湿度・温度管理に努めました。

②ノロウイルスについて

- ・利用者の皆さん的手洗いの声かけなど感染症予防に対する意識づけに努めるとともに、ドアノブ・手すり等の消毒を行ないました。
- ・職員間で嘔吐物等の処理のマニュアル確認を図るとともに、感染症への意識の高揚・予防の徹底に努めました。

3. おいしく楽しく食事をするために

“健康で楽しい食事”を目標とし、献立作成には創意工夫・改善を加え、旬の素材を使用しました。また、行事食・郷土料理を取り入れながら、自然の恵みや四季の変化を利用者の皆さんに、食を通して感じ楽しんでいただきました。

(1) 安全に食事をするために

- ・利用者の皆さんに温かく・おいしい食事を召し上がっていただくために保温食器を使用しました。また、日々変化する利用者の皆さんの身体状況等を把握して、食事の形態も考慮し、安全に食事を召し上がっていただけるよう努めました。

(2) 楽しく食事をするために

- ・「おいしい食事をつくる委員会」を通して、利用者の皆さんの食事ニーズを献立作成に活かせるようにしました。また、年2回嗜好調査を実施し、食事時間がより楽しいものになるよう献立の工夫に努めました。
- ・“オーダーメニューの日”や“赤ちょうちんの日”、さらに“パンバイキング”・“リザーブ食”等々を準備し、日々の食事がより一層楽しくできるように努めました。

(3) 非常時の食事訓練について

- ・非常災害発生時に備え、常に適正な食事が行えるよう、非常食の確保と食事訓練を行いました。

4. 期待される施設をめざして

“利用者の皆さんに・地域社会の多くの人々に信頼される施設づくりを目指して”より一層の施設機能充実のために、次の事項に努めました。

(1) 福祉サービスの質の向上について

利用者の皆さんからの“苦情を解決する仕組み”や、利用者の皆さん個々の尊

厳を尊重し、よりよい支援を目指していくための“虐待防止委員会”、職員が自分達の仕事の善し悪しを客観的に判断するための“サービス評価委員会”その他、ヒヤリ・ハット委員会や各種委員会活動を通して、福祉サービスの質の向上に努めました。

(2) 災害防止について

今年も地震や大規模災害を想定した訓練を行い、利用者・職員間で災害意識の徹底に努めました。また、防災設備の保守点検や火気取り締まりの徹底を図りました。

さらに、職員の防災意識高揚のために毎年参加している自衛消防操法大会では、2人操法・2号消火栓の部で、“準優賞”を受賞しました。これまでに15年連続出場しております。

(3) 地域にねぎした施設づくり

地域老人クラブの皆さん並びに地域小学校の児童の皆さんとの交流に努めるとともに、地域公民館主催の文化祭の行事等に積極的に参加して、交流を図りました。

また、施設行事の案内や施設設備や機能の開放等を行い、地域福祉推進の拠点としての一翼を担うべく、積極的な地域貢献に努めました。

(4) 職員の資質向上について

- ・福祉QC活動に取り組み、業務の改善を行うとともに、職員の資質の向上に努めました。第29回「福祉QC」全国発表大会では、“優秀賞”ならびに“感動賞”を受賞するなど、多方面から高い評価をいただきました。

- ・職員の専門性をより高めるために、職員の国家資格等（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等）の取得を奨励しました。また、全国救護施設研究協議大会や東北地区救護施設研究協議大会への参加、および福島県社会福祉協議会研修センター主催の各種研修会等に職員を参加させました。

- ・養護老人ホーム希望ヶ丘ホームとの行事時等の職員間交流を通して、職員間の情報の共有化と資質の向上に努めました。

(5) 救護施設居宅生活訓練事業並びに保護施設通所事業・保護施設一時入所事業の充実について

利用者の皆さんの地域生活移行の推進を積極的に図るため、救護施設居宅生活訓練事業並びに保護施設通所事業・保護施設一時入所事業の更なる充実に努めました。

(6) 生活困窮者の支援推進と地域貢献（中間的就労支援事業）

平成27年10月1日より、生活困窮者に対して施設が就労訓練等の機会を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上を目指すと共に、施設の社会的役割

や地域貢献、そして地域社会とのつながりを図ることを目的とした、中間的就労支援事業を開始しました。平成30年度は5名の方に支援させていただきました。

(7) ホームページ等による情報提供及び事業紹介に努め、施設の活動内容をタイムリーに発信し、地域社会の多くの方々へ郡山せいわ園を理解いただくよう努めました。3月31日現在のホームページへのアクセス件数は、182,000件を越えました。

5. 予算経理について

予算の執行については、限りある予算を厳密に検討し、効率的な運用に努めました。

6. 月別利用状況

(単位:名)													
定員 80名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
救護施設	86	84	86	88	88	88	88	88	88	88	88	88	87

平成 30 年度 居宅生活訓練事業 事業報告

1. 事業内容

本事業の実施にあたっては、事業の対象者の状況に応じ、継続して居宅において生活できるよう、次のことがらについて、あらかじめ訓練計画を定め、効果的に行いました。

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの一年間、郡山市富久山町陣場にて女性 3 名の利用者の皆さんに支援させていただきました。

(1) 日常生活訓練（日常的家事・食事・洗濯・清掃等）

・食事について

居宅にて炊飯訓練を隨時行い、メンバー間の協調性の強化と自立生活を行なう上で必要なスキルの向上を目指し支援しました。また、栄養面に考慮した献立を考え、生活習慣病や肥満の予防に努めました。

・日常的家事、洗濯、清掃等について

清潔で健康な生活を保つために、洗濯や清掃等。定期的な身辺の衛生管理が自発的に行えるよう支援しました。

(2) 社会生活訓練（公共交通機関の利用・地域行事への参加等）

公共交通機関のバスを利用し通園しました。また、交通面での危険予防、回避が行えるよう支援し、交通安全に努めました。

(3) その他自立生活に必要な訓練（健康管理に関する訓練等）

- ・通院等については、郡山せいわ園が支援し、服薬については、担当職員が段階に応じて、お薬を手渡し、自己服薬を行えるよう支援しました。
- ・緊急時等の対応について、日常的に火気取り締まりの徹底を行い、災害防止の意識を高めていけるよう努めました。また、上手に電話を使用できるよう支援し、定時連絡や緊急時の連絡を行えるようにしました。

(4) 職員の資質の向上について

各種研修会等に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。

平成 30 年度 保護施設通所事業報告

1 事業内容

郡山せいわ園への通所による生活支援・生活訓練等または就労支援・職業訓練等の実施（通所訓練）と職員の居宅等へ訪問による生活支援の実施（訪問支援）を一体的に行いました。

(1) 利用者状況について

男性 2 名、女性 5 名に利用して頂き、実施しました。

(2) 通所訓練

① 生活相談支援について

安心して、地域生活が送れる様に、困りごとや不安な事についての相談を受けています。ご利用者の方に寄り添って問題を解決出来る様に支援しました。

② 作業訓練支援について

ボールペン組み立て作業、ドライフラワー袋詰め作業、雑巾縫い、綿作業等を行っています。責任感を持って仕事に取組み、就労に対する意識の向上と、生きがいある生活リズムが確保出来るように支援しました。

③ 健康に関する支援について

郡山せいわ園の看護師と連携を取り、通院時に付き添い援助を行い、安心して通院して頂けるよう支援すると共に、体力トレーニングを行ない体力の維持向上ができるよう支援を行いました。

④ 食事サービス支援について

郡山せいわ園の管理栄養士と連携を取り、健康を考えた栄養バランスの良い食事の提供と助言を行ないました。また、月 1 回、調理支援を実施し、献立の上手な作成と調理技術の向上を目指し、支援を行いました。

⑤ 外出支援について

買い物の仕方や、公共の場所でのマナーを身に付ける為に、地元のスーパー等に公共交通機関を利用して外出し、日用品の買い物を行なっています。地域で生活していく上で必要な能力を伸ばせるように支援しました。

⑥ 学習支援について

お金の計算や字の読み書き等、生活の上で必要な知識を身につける為の支援を行いました。

⑦ レクリエーション活動支援について

施設内行事への参加や、ゲームや体操、カラオケ等のレクリエーションを行ないました。

⑧ 一時宿泊支援について

身体的、精神的に不安定な場合や、その他の事情により郡山せいわ園での宿泊を希望された場合等は、短期間、郡山せいわ園でご生活いただき支援しました。

⑨ 家族調整支援について

ご家族と連絡をとり、近況の報告や帰省・外泊等の調整を行ないました。

⑩ 地域交流活動について

郡山せいわ園の行事や地域との交流活動への参加を促し、地域の多くの方々との交流を通していきいきとした生活になるよう支援しました。

(3) 訪問支援

① 生活支援について

清潔で安全な生活ができる様に、衛生・環境の整備や身だしなみの支援等、生活全般についての助言・援助を行いました。

② 相談支援について

個人面談を行い、生活面での困りごとや、悩んでいる事について相談支援を行っています。地域で安心して生活できる様に助言や援助を行いました。

(4) 緊急時の対応について

安全、安心した生活が送れるよう、定期的に非常時に備えた諸訓練及び火気取り締まりの徹底を行ない、災害防止の意識を高めるよう支援しました。

(5) 職員の資質向上について

各種研修会などに積極的に参加し、視野を広め色々な角度から論理的に分析し、的確な支援が出来るよう自己研鑽し資質向上に努めました。

平成 30 年度 保護施設一時入所事業 事業報告

1 事業内容

本事業の実施にあたっては、施設を短期間ご利用いただくことで、精神状態の安定を目指した支援を行い、居宅生活の継続、退院から居宅生活へのステップ、あるいは体験利用による施設生活から居宅生活へのステップへとつなぎました。

今年度は、4名のご利用がありました。

(1) 日常生活支援

体調の回復と栄養バランスを考慮した食事の提供に努めました。また、入浴や衣類交換等の支援を通して、清潔で健康な生活が送れるように努めました。

(2) 健康への支援

一日3回の検温、必要に応じて、血圧測定や服薬支援を行ない健康管理に努めました。

(3) 他利用者の方とのコミュニケーション

よりよい人間関係が築いていけるように、必要に応じて他利用者の方との関わりについて支援しました。

2 健全な管理・運営

的確な支援が出来るように各種研修会等に積極的に参加し、福祉サービスの質と職員の資質の向上に努めました。

※平成 30 年度のご利用者は次の通りです。

性 別	年 齢	期 間	措 置 機 関
男性	70 歳	平成 30 年 9 月 10 日～平成 30 年 10 月 5 日	県南保健
男性	70 歳	平成 30 年 11 月 21 日～平成 30 年 12 月 20 日	県中保健
男性	55 歳	平成 30 年 11 月 29 日～平成 30 年 12 月 7 日	郡山市
女性	63 歳	平成 30 年 12 月 20 日～平成 31 年 1 月 8 日	郡山市

以上 4 名の方にご利用いただきました。

平成 30 年度 グループホーム「みんなのいえ」事業報告

グループホーム「みんなのいえ」を利用している皆さん、地域生活を円滑に、また自立した潤いある生活を送ることを目標に、次の諸事項を実施いたしました。

1 利用者の相談支援について

利用者の皆さんの日常生活において、サービス管理責任者を中心に、生活全般に関する相談支援を行いました。また、バックアップ施設の郡山せいわ園による苦情解決システムも活用して連携を図り、迅速な対応に努めました。

2 健康と食事の支援について

利用者の皆さんの希望とバランスの取れた献立を予算内で作成し、世話人が一緒に調理を行い支援することで、生活習慣病予防や肥満の防止に努めました。また、毎日の健康を維持するために必要な事柄（体温チェック・外傷の処置等）について、隨時世話人と連携を図り、支援しました。また、インフルエンザ等の感染症予防として、うがいと手洗いの励行、外出時のマスクの着用と帰宅時の手指の消毒の徹底を図り、支援に努めました。その他、バックアップ施設である郡山せいわ園の栄養士・看護師と連携を図り、通院支援の他、定期的な健康診断や予防接種の支援も希望にて行い、健康な生活を送れるよう支援しました。

3 外出や外泊の支援について

地域における自立生活の向上を目指し、市内ショッピングや旅行を企画し、利用者の皆さんに交通機関等の社会資源を活用していただき、実体験的な支援に努めました。また、外出や外泊についてご家族等の方々と連絡調整を行い、交流が図れるように支援しました。

4 余暇活動等の支援について

個々の趣味等の幅を広げていただけるように情報提供を行い、充実した潤いのある社会生活が送れるように支援しました。また町内会活動にも参加させていただき、クリーン活動等を通じて地域の皆さんと交流を図り、地域社会の一員として生活が送れるよう、隨時支援しました。

5 緊急時の対応について

災害防止についての意識の高揚を目指し、定期的な避難訓練及び防火設備の保守点検を行い、利用者の皆さんに安心・安全にご生活いただけるように努めました。また、バ

ックアップ施設の郡山せいわ園との連携を強化し、病気や災害等の緊急時には迅速に対応できるよう、連絡体制等を明確に整備し支援しました。

6 バックアップ施設との連絡調整について

利用者の皆さんお一人おひとりに合った個別支援計画に基づき、生きがいや希望を持ってご生活いただけますように支援しました。また、日中通所している郡山せいわ園と連携を密に図り、交流会等への参加を通じて地域社会とのつながりを図っていただきました。

7 財産等の日常生活に必要な援助について

財産等については入居時に利用者の皆さんの意向をふまえ、財産等を委託される場合には原則的にサービス管理責任者が担当するようにし、その適切な管理に努めました。利用者の皆さんの収支については承諾を得て銀行手続き等を必要時に代行し、適正な支援をおこないました。またその他の必要な手続き等も同様に、隨時行いました。

8 職員の資質の向上について

研修会等に積極的に参加し、利用者の皆さんにより良い支援を提供できるよう、資質の向上に努めました。

9 『みんなのいえ久保田』への移転について

グループホーム水神山を、平成30年9月1日より水神山から富久山町久保田にグループホームを移転しました。

名 称	定 員	利 用 人 数
みんなのいえ	4 名	4 名
みんなのいえ久保田	5 名	5 名
みんなのいえ陣場	3 名	3 名

平成31年3月31日 現在

平成 30 年度 希望ヶ丘ホーム 事業報告

当施設は、“利用者本位のサービスの提供”と“信頼される施設づくり”をテーマに次の諸事項を通して、利用者の皆さん及び地域の皆さんに“しあわせ・よろこび・満足”そして“信頼”をいただける施設運営及び福祉サービスの提供を目指し、鋭意努力してまいりました。

☆重点事項☆

1 毎日を心豊かに自分らしくすごすために

利用者の皆さんに、地域での生活とできるだけ違いのない生活条件を整え、すべての人が安心して生活でき、毎日を心豊かで健康に、そして自分らしくすごせるように次の通り努めました。

- (1) 利用者の皆さんの個別支援計画（新型養護老人ホームパッケージプラン）に基づき、毎日を心豊かに自分らしくすごしていただくために必要な支援を行ないました。
- (2) 利用者の皆さんのが参加するクラブ活動や各種行事、レクリエーション等を通して、楽しく明るい生活が送れるよう支援しました。
- (3) 利用者の皆さんの自治会活動をより活性化するとともに、各種委員会に参加いただき、利用者相互の連携と親睦を図るとともに、利用者の皆さん方の声を大切にし、豊かで潤いのある生活が送れるよう支援しました。

*実施した主な行事は次のとおりです。

- 4月　・お花見
- 5月　・端午の節句
 - ・マルショークラブ芳泉流 紀竹芳教室さんのご慰問
- 6月　・健康まつり・郡山キリスト共同教会さんのご慰問
 - ・ミセス・グレース田中恵子ご夫妻のピアノの演奏ご慰問
 - ・郡山市シルバー人材センターさんの植木剪定ご慰問
- 7月　・身元引受人会議
 - ・音楽交流会
 - ・友近 890（やっくん）さんのご慰問
- 8月　・盆踊り前夜祭・後夜祭 台風の影響のため中止
- 9月　・敬老祝賀会
 - ・第 39 回敬老の日おたよりコンクール作品贈呈式
 - ・メガネの相沢さんご慰問

- ・郡山市鍼灸接マッサージ師会さんご慰問
 - ・郡山市理容組合青年部さんご慰問
- 10月・第30回福島県養護軽費老人ホーム・ケアハウス連絡協議会 輪投げ大会
- ・日帰り旅行
 - ・一泊旅行
- 11月・芋煮会
- 12月・オカリナ夢俱楽部さんのご慰問
- ・福島県理容生活衛生同業組合郡山支部女性部さんのご慰問
 - ・らーめん幸司さんのラーメンご慰問
 - ・クリスマス・忘年会
- 1月・新年会
- ・団子ならし
- 2月・節分
- 3月・総合防災訓練
- ・ひなまつり
 - ・多田野健康クラブさんのご慰問

2 健康にすごすために

- (1) 利用者の皆さんに“健康にすごすことの大切さ”を理解していただき、その方らしく日常生活ができるよう健康管理に努めました。日々の啓蒙活動を通して、健康指導の充実を図り健康への意識を高めていただきました。
- (2) 嘔下機能の維持向上を目指し口腔体操、また、機能回復訓練の一環として歩行訓練を行い、利用者の皆さんが健康的に生活できるよう支援しました。
- (3) 利用者の皆さんのがん維持のため、関係職種（嘱託医、理学療法士等）との連携を密に図りました。

3 おいしく、楽しく食事をするために

衛生面に配慮し、安心しておいしい食事を楽しく食べていただくために、お一人おひとりを良く理解し、嗜好に合った献立作成に創意工夫、改善を加え、バランスの良い食事サービスの提供に努めました。

4 家族および地域社会との交流のために

- (1) 各種施設行事への家族の方々の参加の促進と、身元引受人の皆さんとの情報交換を行ない、家族との外出・外泊などを通して、交流を深めるよう支援しました。
- (2) 地域社会との交流（地元小・中学校・各種ボランティアとの交流、地域行事への参加および、施設行事、クラブ活動への参加の呼びかけ等）を積極的に促進し、地域

社会の皆さんとの心のふれあいを育てました。

- (3) 実習生 10 名を受け入れ、施設への理解・関心等がさらに深められる様に努めました。
- (4) 利用者の体調面や精神面の変化等に応じ、行政機関や家族等との連携を密に図り情報の共有に努めました。

5 安心してご生活いただくために

- (1) 利用者の皆さんの身体・生命の安全を最優先とし、非常時に備えた定期的な諸訓練（自衛消防操法等）を通し、災害（事故）防止に努め、環境整備の強化を図りました。また、福島県災害派遣福祉チームの活動や福島県災害応援協力ネットワーク会議、福島県総合防災訓練等に参加し、大規模災害に対応する体制を構築しました。
- (2) 地域のセーフティネット機能を有する施設として、虐待などの緊急避難者の受け入れや心のケアを必要とする方々の受け入れに積極的に取り組み、様々な福祉ニーズを抱えた利用者の皆さんのが安心、安全、安寧に自分らしく生活出来る体制作りに努めました。

6 地域社会から必要とされる施設を目指して（生活困窮者等の支援推進と地域貢献）

- (1) 平成 30 年 4 月より養護老人ホームが特定施設としてスタートし、利用者の皆さんの介護サービスの充実を図りました。
- (2) 生活困窮者等に対し、施設が中間的就労支援等の機会を提供し、就労に必要な知識及び能力の向上を目指すと共に、法人・施設の社会的役割や地域貢献、そして、地域社会とのつながりを図りました。また、法人本部と連携し、生活困窮者等への支援の拡充に努めました。
- (3) 要支援・要介護状態の利用者の増加や多様なニーズに応えるためにサービス事業所と密に連携を図り、利用者の皆さんへ質の高いサービス提供に努めました。
- (4) 地区民生児童委員や各高齢者あんしんセンター、地域の老人クラブや消防団等と連携を図り、地域ニーズの把握に努めました。
- (5) 郡山市更生園、希望ヶ丘学園、希望ヶ丘保育所、きらきらげんき保育園との交流や連携等の強化に努め、新たに郡山市希望ヶ丘児童センターとの交流も図りました。

7 将来を担う職員の育成について

- (1) 定期的な面談を通し、法人施設の将来を背負ってくれる活力ある職員の育成に努めました。
- (2) ジェントルティーチング等の理念を基底とし、利用者の皆さんへの質の高い福祉サービスの提供に努めました。
- (3) 福祉 QC サークル活動を積極的に推進し、業務の改善をはかるとともに、職員の資

質の向上に努めました。また、「福祉 QC」全国発表大会や、他法人合同の「福祉 QC」発表大会等に積極的に参加し、職員の育成に努めました。

- (4) 職員の専門性をより高めるために、職員の国家資格等（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員等）の取得を目指す職員に対して、全職員でバッカアップし、奨励しました。
- (5) 全国老人福祉施設大会や全国老人福祉施設研究会議への参加、また東北ブロック老人福祉施設協議会養護老人ホーム研修会および、福島県社会福祉協議会研修センター主催の各種研修会に積極的に職員を参加させ、職員の資質の向上および、利用者の皆さんとの多様化する福祉ニーズに応え、対応・実践できる職員の育成に努めました。
- (6) 救護施設郡山せいわ園、きらきらげんき保育園との行事・研修等の職員間交流を行ない、職員間の情報の共有化と資質の向上に努めました。

8 予算経理について

予算経理の執行にあたっては、限りある予算を厳密に検討し、効率的な運用に努めました。

9 月別利用状況

(単位：名)

定員 74 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
養護老人 ホーム	73	72	72	74	74	73	73	73	72	73	74	73	73

(単位：名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
特定施設	15	15	15	16	17	17	17	17	17	19	19	19	17

平成 30 年度 希望ヶ丘訪問介護事業所 事業報告

希望ヶ丘ホームの利用者の方をはじめとして地域社会の介護を必要としている方々にきめの細かい介護サービスの提供を目指しました。

☆重点事項☆

要介護状態又は要支援状態にあるお客様に対して、多様なニーズに応じ介護保険制度上の適切な訪問介護サービスを提供し、住み慣れた地域で安心してその人らしい生活が継続できるよう「自立支援」と「生活の質の向上」を念頭に、職員が一体となって支援しました。

1 在宅福祉の充実と、地域に密着した介護サービスの提供

(1) 地域の介護保険情勢やニーズの把握に努め、お客様へよりよい介護サービスの提供に繋げるために、関係市町村・地域包括支援センター・地域の保健医療福祉サービス等と綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めました。

2 介護サービス提供と向上

(1) お客様からの相談、苦情等に対する窓口を設置し、自ら提供した居宅介護支援または居宅サービス計画に位置づけた指定居宅サービス等に関するお客様の要望苦情等に対し、迅速に対応しました。

(2) 身体介護の提供にあたり、より安全かつ快適な介護サービスを提供するために、定期的な業務マニュアルの見直し及び業務改善を図りました。

(3) 提供する介護サービスの評価やリスク等の分析等々を行い、質の高い介護サービスの提供に努めました。

3 健全な事業所運営をするために

(1) 介護サービスの質の向上を目指すために

利用者の方からの苦情を解決するシステムやリスクマネジメントの取り組みを行い、サービスの質の向上に努めました。

これらを有機的に活用し、より質の高い介護サービスを継続的に提供できる仕組みを作り、「問題後追い解決」から「課題先取り」ができるように努めました。

(2) 職員の資質を向上させるために

職員の専門性をより高めるために、職員の国家資格等の取得を推奨しました。
また、各種研修会への積極的な参加の促しや、内部での勉強会の機会を増やし、
職員の資質の向上および、お客様の多様化する福祉ニーズに応える職員の育成に努めました。

4 月別利用状況

(単位：名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
希望ヶ丘 訪問介護 事業所	18	18	18	18	18	19	19	18	18	18	19	21	19

平成 30 年度 きらきらげんき保育園 事業報告

当施設は、児童福祉法第 39 条の規定に基づき“保育を必要とする子どもの保育”を行い“健全な心身の発達を図る”ことを目的とする児童施設であり、入園する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場になるよう努力いたしました。

☆重点事項☆

1 保育に関する専門性を有する職員が家庭との緊密な連携の下にお子さまの状況や発達過程を踏まえ養護を一体的に行えるよう努めました。

2 お子さまの属する家庭や地域との様々な社会との連携を図りながら、保護者に対する支援及び地域の子育て、家庭に対する支援等に努めました。

3 連携施設と協力し、お子さま及び保護者に対する支援等に努めました。

4 保育時間について

通常保育の時間は、7 時 30 分～18 時 30 分までとし、延長保育(18 時 30 分～19 時 30 分)は、満 1 歳以上のお子さまを対象に保護者の勤務状況等により事前の申請でご利用いただきました。

5 送迎について

送迎は保護者の皆様にお願いし、保護者以外の方の送迎の場合は、必ず保育園へ事前に連絡を入れていただくようお伝えしました。連絡がなく、確認が取れないときは、お子さまを安易に引き渡すことなく、職員全員に周知し、対応しました。

6 健康診断について

(1) 嘴託医による内科・歯科の健康診断を年 2 回、6 月・10 月に行いました。

(2) 発育測定を毎月行い、健康カードで測定の記録をお知らせしました。

7 感染症について

感染症にかかった場合、出席停止期間または医師が登園しても差し支えないと認めるまで、保育することができないため、感染症が疑われる際には、病院を受診し保育園へ預けられるかを確認して登園するように保護者に周知徹底いたしました。

8 給食について

必要な栄養を摂取すると共にお子さまのからだや心の成長・発育・健康の保持増進のために、楽しい雰囲気の中で望ましい食習慣や栄養・衛生についての知識を身につけることを目的に、0歳児の月齢別の離乳食や1、2歳児の食事については個々に合わせて準備しました。

また、食物アレルギー等のあるお子さまには、かかりつけ医の指示に基づき、成長に合わせたアレルギー除去食等を準備し、細やかな対応に努めました。

9 緊急時の対応について

お子さまに病状急変等の緊急事態が発生した場合には、保護者の指定する医療機関及び緊急連絡先等へ速やかに連絡をおこなうよう努めました。

10 個人情報について

業務上知り得たお子さまおよび家族に関する情報については正当な理由がない限り第三者に漏らすことのないよう職員全員で周知徹底いたしました。関係機関へ情報提供をするにあたっては、個人情報使用同意書を提出いただいたうえで提供させていただきました。

11 職員の資質向上及び人材育成について

- (1)職場内外の研修に参加し、専門的な知識・技術の習得に努めました。
- (2)職員一人ひとりが保育実践や保育の内容に関する共通理解を図り協働性を高めていけるように努めました。
- (3)救護施設 郡山せいわ園、養護老人ホーム 希望ヶ丘ホームとの行事・研修等の職員間交流を行い、職員間の情報の共有化と資質の向上に努めました。

12 予算経理について

予算経理の執行にあたっては、限りある予算を厳密に検討し、効率的な運用に努めました。

13 平成30年度 月別園児数

(単位：名)

クラス名	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
パンダ(0歳)	6	2	2	4	6	6	6	6	6	6	6	6	6
ウサギ(1歳)	6	6	6	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6
コアラ(2歳)	7	5	5	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7
合計	19	13	13	15	18	19	19	19	19	19	19	19	19

*実施した主な行事は次の通りです。

月	行 事
4月	入園式 お花見
5月	端午の節句 開園記念植樹
6月	内科・歯科健診
7月	七夕会 プール開き・水遊び
8月	プール納め
9月	敬老祝賀会
10月	内科・歯科健診 地域ふれあい事業 総合防災訓練 保育参観
11月	七五三
12月	おたのしみクリスマス会
1月	子ども新年会
2月	節分
3月	ひなまつり 卒園式・修了式 お別れ会